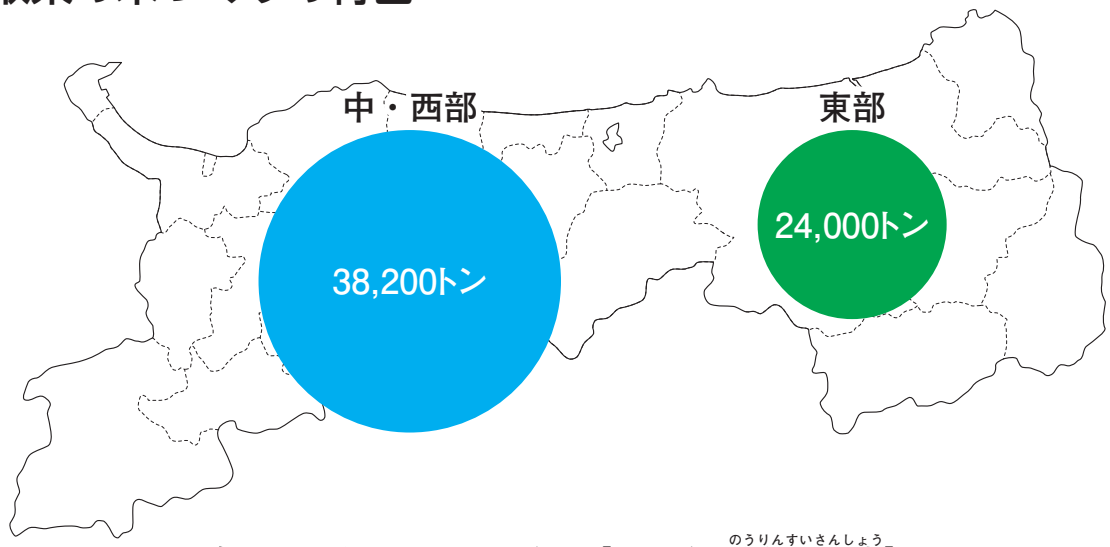
2　米づくりのさかんなところ

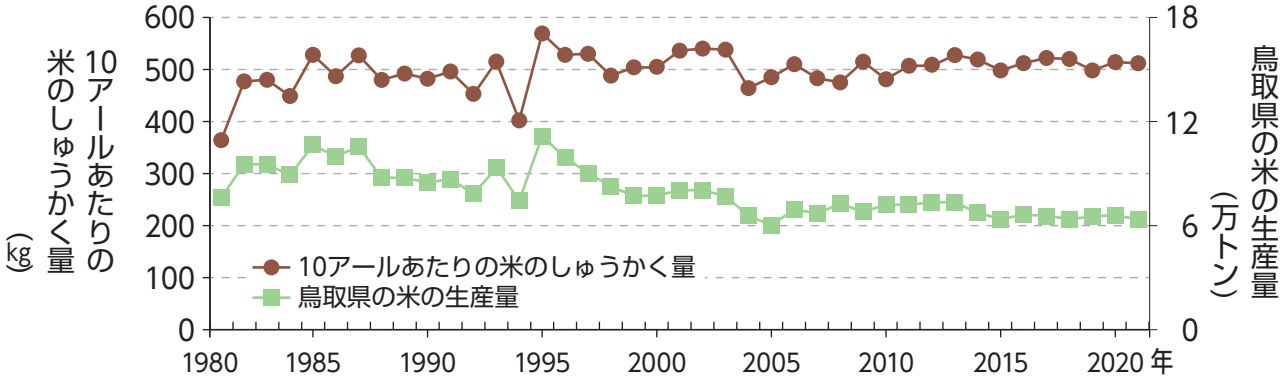
①鳥取県の米づくりの特色



鳥取県の米のしゅうかく量［2023年/農林水産省］

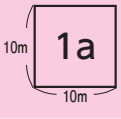
米は，わたしたち日本人の主食です。鳥取県全体で約６万２千トンの生産量があります。鳥取県は人口の少ない県なので，県内で食べきれない米は，京阪神を中心に出荷されています。

また，地域にあった品種や肥料のやり方などを工夫して，一定の面積からしゅうかくできる米の量（10アールあたりの米のしゅうかく量）がふえるように努力しています。



10アールあたりの米のしゅうかく量，鳥取県の米の生産量
［2021年/農林水産省］

1ａ（アール）＝100㎡（10m×10m）



米づくりをしている農家の数はへってきているかわりに，大型機械を使って大きぼに米づくりをしている農家はふえてきています。

全国的に米を食べる量がへってきているため，田では大豆や野菜などをつくり，米の生産量をへらしてきています。鳥取県でも同じように米の生産量がへってきています。

また，近年の世界のさまざまな状況で肥料や農薬のねだんが上がったことや，米のねだんが下がってきていることなどが問題となっています。そのため，県内の米をつくる農家も，これらの問題を解決するためにしんけんに米づくりに取り組んでいます。

県内各地では，今後のことを考えて地域の特色を出した「ブランド米」がつくられています。農薬をあまり使わないようにしたり，おいしい品種をつくったりするなど，生産者がこだわりをもった米づくりをしています。

鳥取県産きぬむすめ
マスコットキャラクター
きぬむすびちゃん

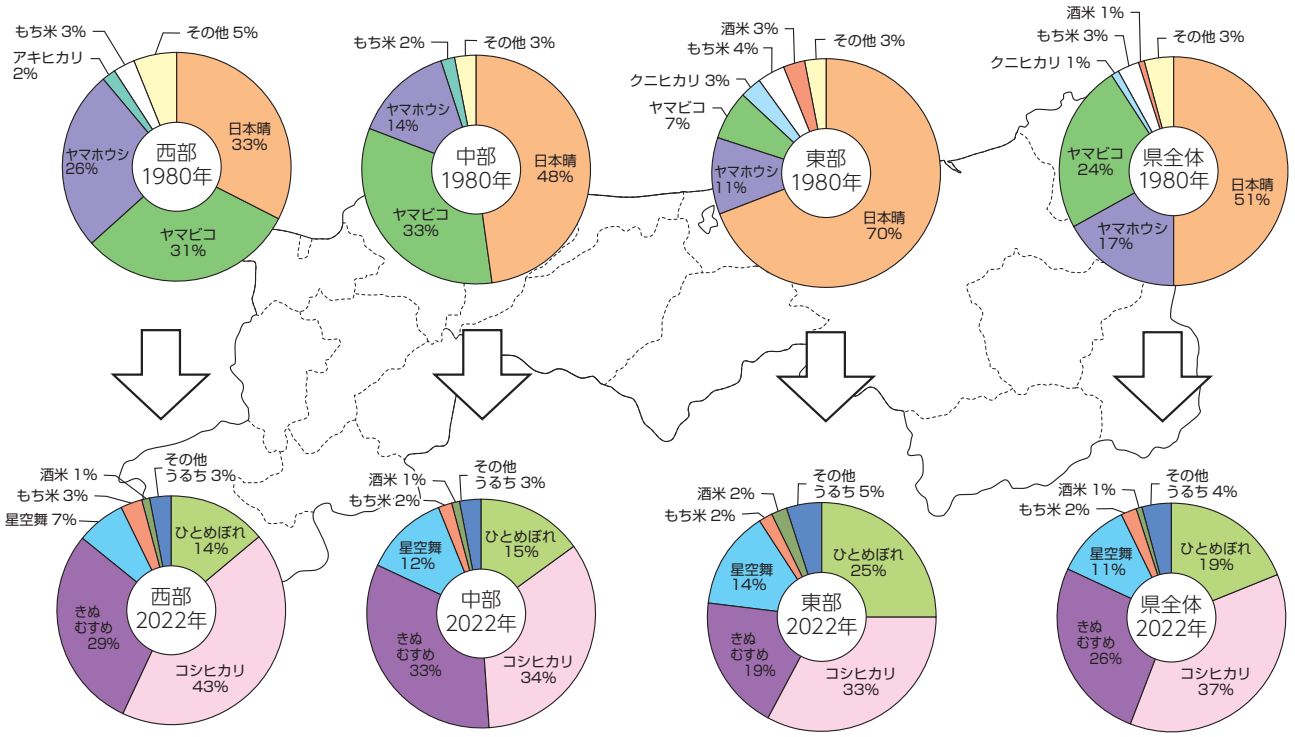
はん売されている米袋のデザインの例

②クローズアップ！米づくり

つくられる米の品種の変化

鳥取県でつくられる米は，おいしい品種に変わってきました。

１９８０年（昭和５５年）には，ほとんどつくられていなかったコシヒカリ（福井県で生まれた品種）が，今では県内で最も多くなっています。また，ひとめぼれ（宮城県で生まれた品種）も多くつくられており，この２つの品種のさいばい面積は県内の５６％になります。近年では，これらの品種より実る時期が遅く，暑い夏でも品質が良いきぬむすめ（九州で生まれた品種）の面積がふえており，２０２２年（令和４年）には県内さいばい面積の２６％になっています。さらに，２０１８年（平成３０年）には，鳥取県が育成した「星空舞」がデビューしました。「星空舞」は，暑い夏でも品質が良く，コシヒカリの少し後にしゅうかくができ，たおれにくく，おいしいことから，農家の米づくりに元気が出てきています。



鳥取県の地域別に見た米の品種別割合［2022年/全農とっとり］

星空舞がたん生するまで

イネは，夏に穂が出て，もみ一つぶずつに花が咲き，秋に米が実ります。ふつうは，イネの花の中のめしべに，同じ花の花ふんが付いて実になります。

一方，新しいコメをつくるときは，１つの品種のめしべにちがう品種の花ふんをつけます。この品種と品種をかけ合わせる作業を「人工交配」といいます。

鳥取県では，新しいコメをつくろうと考え，病気に強い品種のめしべに，おいしい品種の花ふんを付けて新しい品種をつくることにしました。この方法でできたもみを種にしてイネを育てながら何回も人工交配をくり返しました。こうして新しいコメをたくさんつくり，その中から，病気に強く，たおれにくく，おいしいなど，すぐれた特ちょうを全部もったコメをえらびました。

コメは一年に一回しか育てることができないので，新しいコメをえらぶまでには長い月日がかかります。「星空舞」もたん生するまでに約３０年の月日がかかりました。

いなほ

イネの花

ほが実るともみがとれるよ。

なえと田植え

種まき

もみを種まきするとなえができて田植えをするとまたイネをつくることができるよ。

もみがらを取りのぞくと米ができるよ。

げんまい

もみ

会社をつくって米づくりに取り組んでいる山崎さん

山崎さんは鳥取市気高町を中心に，約４２ヘクタールの水田で，大きぼ農業に取り組んでいます。

初めは，農家一人ずつが米づくりに取り組んでいましたが，みんなで協力してもっとたくさんの米づくりをしたいと考え，１９９２年（平成４年）に「みどり農産」という会社をつくりました。

会社にすると，みんなで作業を分たんしたり，協力したりすることができるので，一人で作業するよりも仕事がずいぶんとはかどります。今では会社のみんなが協力して，米のほかに，大豆，アスパラガスや白ねぎなどの野菜もさいばいしています。

社長の山崎さん

地域の皆さんの役に立てるよう，機械だけに頼らず，人それぞれの力をいかした経営を進めています。あとつぎを育てながら，新鮮な野菜を消費者の皆さんにおとどけし，きれいなひまわり畑やおいしい農産物を通して，会社が新たな地域交流の場になればと願っています。

会社役員の安立さん

農業を仕事にする会社ではたらくということは，みんなで協力し，アイディアを出し合って作業を効率的に行って大きぼの田んぼや畑でお米や白ねぎ，アスパラガスなどの農産物をさいばいし，それをお客さまにはん売することです。一生けん命つくった農産物を，みなさんにおいしく食べていただくことが，農業を仕事にしてはたらくやりがいと喜びにつながります。